

「自由」と「責任」、そして「挑戦」の夏に

4月に新年度がスタートしてから4か月近くが過ぎ、生徒にとって待望の夏休みが明日から始まります。今年度のこれまでを振り返り、夏休み明けの前期後半にうまくつなげることのできる期間としてほしいと思います。

1日の大半の時間を家庭で過ごす生活に変わります。学校という、集団で過ごすために決められた時間や授業、きまりといった枠がなくなり、自分の判断で過ごし方を決めていくこととなります。つまり、少なくとも夏休み前の生活に比べて、一人一人が「自由」を得て生活できるわけです。

「自由」であるということは、その間の過ごし方によって生じる全てのことに「責任」を負わなければならないということでもあります。誰かが決めた、誰かにやらされたことではなく、自分が決め、自分がやった（あるいはやらなかった）ことで生じる影響や結果は、他の人のせいにはできません。責任を負うことができるのは自分しかいないのです。



夏の楽しみは、水泳授業！
暑い日のプールは最高です！

「挑戦」をキーワードに、夏休みを充実させよう！

こんな、「自由」と「責任」のもとで過ごす1か月間の夏休みは、人が決めた枠ではなく、取り組むことを自分自身の責任において自ら決め、自分を律しながら頑張る夏休み、いわば「挑戦する夏休み」にしてほしいと思います。

意味のある「目標」と真に自分の求める「目指す姿」を思い描き、達成に向けて努力する。その結果、大きな成果を得られる夏休みとなることを期待しています。

「挑戦」に立ちあがる困難に負けないよう、今日の全校朝会で紹介した鈴木敏文さんの言葉を、改めて紹介します。

鈴木 敏文 さん

- セブン&アイ・ホールディングス元会長
- コンビニエンスストアの生みの親

令和3年7月21日

第9号

人間は過去の延長線上で考えてしまいがちです。それは、これまでの延長線上で考えたほうが、楽だからです。

昨日と同じことを今日もやり、明日もやる。しかし、楽なほうに流れたときから、市場の変化に取り残されていく。

「できない理由」をあげる前にもう一度問い直してほしいのは、いま、「できない理由」と考えていることは本当に「できない理由」なのかということです。

「挑戦」は、生徒だけではない！～夏休み後の学校を見据えて～

生徒に「挑戦」を求めているだけでは、学校は変わりません。夏休み後の、さらには次年度以降を見据えた学校の在り方について、何をどうすべきか。これを考え準備を進めることが、校長にとって大きな「夏休みの課題」として考えています。今、目の前にある具体的な一つ一つの問題の解決だけでなく、これからの「目指す学校づくり」に向けた「挑戦」です。そして、この「挑戦」に終わりはなく、常に上を目指して取り組んでいくものです。難しい課題ですが、楽しみながら取り組んでいきたいと思っています。

生徒・教職員・保護者・地域にとって「よりよい大形中学校」とは、どのような学校か。この問題を真剣に考え、多くの人と協働して、「目指す学校」を創り上げる。

この大きな課題、言い換えれば最上位の目的を達成するための「挑戦」は、校長にとっての挑戦というだけでなく、生徒・教職員・保護者・地域といった、学校にかかわる全ての人にとっての「挑戦」であると考えます。

そこで、これからの学校づくりについての思いや願いを、多くの方から聴かせてもらいたいと思っています。どなたでも遠慮せず、校長までお声がけください。もちろん生徒の皆さんも大歓迎です。いつでも、校長室を訪ねてください。ぜひ、これからの大形中と一緒に創り上げていきましょう。